



商品開発・事業開発

福井県よろず支援拠点

企業名	株式会社北前船のカワモト		
代表者	川本 功一	所在地	敦賀市
業種	食品製造・販売業	事業内容	おぼろ昆布加工・販売・食品卸売業

企業名	有限会社小杉工房		
代表者	小杉英一	所在地	坂井市
業種	繊維製品製造業	事業内容	着物帯製造販売

デザインをキーとした海外向け新商品の開発支援

着物姿でもスマートフォンが簡単に保持できる「腰巾着」の開発

現状	<p>創業者である現社長の父がおぼろ昆布職人であったことから、手掻きのおぼろ昆布を始めとして、出汁用昆布や昆布関連製品を製造し、直営店及びオンラインショップ、百貨店の催事などで販売している。現社長が就任した際に「北前船」の商売のあり方を基本にする、という考え方で屋号に北前船を取り入れ、社名も変更している。</p> <p>数年前から海外への販売に取り組んでおり、ある程度の販路開拓は実施できているが、それを更に伸ばしていく上で取り組むべき課題を整理したい、という相談に、川本社長、川本専務、吉阪常務が来られた。初回の相談で会社の事業概要を確認し、国内販売、海外販売、それぞれの問題点についてヒアリングを行った。</p>
----	---

現状	<p>着物帯の市場は年々縮小しており、新製品開発は喫緊の課題であった。北潟湖付近の盆踊り「北潟古謡どっしやどっしや」では着物で長時間踊るのだが、その際にスマートフォンの所持に困っている人が多いことに気が付いた。開発の際には、近隣の同業者の協力もあって、着物の帯に差し込んでスマートフォンを保持することのできる「腰巾着」の試作品を作った。本製品を模倣から保護するための実用新案権の取得と販路開拓等について、どうすればよいか分からず悩んでいる時に、福井県発明協会からよろず支援拠点を紹介された。</p>
----	---

分析提案	<p>10年ほど前から「黄金のだし」という個包装タイプの出汁パックを開発して販売している。この市場は茅乃舎が国内の百貨店や海外で直営店を展開しており、消費者の認知度では圧倒的に高く、この牙城を崩すのは容易ではない状況にある。</p> <p>茅乃舎の強みは、先行して市場展開、海外展開を行ったことだけでなく、無添加や食塩不使用の製品である、という点にある。</p> <p>一方、当社の製品には無添加かつ食塩不使用のものがなく、香港やシンガポールなどの富裕層向け商品としては競争力が不足していた。また、パッケージデザインやネーミングも洗練されたイメージが不足しており、日系の百貨店での取扱はあるものの、仕入商品の種類に限られており、大きな陳列スペースの獲得にはつながらない。これを踏まえて、最高級ランクの出汁パックと海外市場への投入を提案した。</p> <p>①最上級の素材を使った商品の開発 材料の品質や構成、味、全ての面で満足できるレベルの商品を開発した。</p> <p>②当初案としてのパッケージデザインとネーミング案の立案 ネーミングは漢字を使うなら1文字にする、できれば数字を使って他のメーカーとは違うことを印象づけ、海外でも国内でも同じように使えるデザインにすることを提案し、議論の結果、「心」を使うことを決断された。</p>
------	---



最高級出汁パック「心」



川本社長

分析提案	<p>元々、浴衣用の角帯を製造しており、その生地を有効活用するという視点で考えられた商品であり、和装関連ルートであれば売れる可能性はあると考えられた。</p> <p>「腰巾着」と命名した、帯に挟んでスマートフォン等を収容できる巾着は、当初、実用新案登録をしたいという希望だった。実用新案権は特許と比べて実効性が弱く、存続期間も短い上に、自力で出願書類を作成するのは難しいなどの難点があった。</p> <p>一方、意匠権は物品の美的外観について権利付与され、存続期間も20年と長く、しかも実効性があり、現物を特許庁に提出することで手続きが行えるという自力の出願が容易であるため、意匠登録出願を提案した。あわせて商標について調査を行い、「腰巾着」で商標登録できる可能性は高いので、商標の自主出願も提案した。</p>
------	---



開発した「腰巾着」



小杉社長

成果	<p>香港での展示会において持参した製品が完売(約24万円相当)した。これまでも取引のあった香港そごうから、新商品の発注と共にこれまで取り扱ってくれなかった他の商品も全て発注があった。</p> <p>関東圏の小売店から予想を超える発注があり、発売3ヶ月で120万円弱の売上を達成した。これまでの商品も市場投入後の立ち上がりが遅く、それなりの売上規模に達するまでは時間がかかっているが、比較的順調に立ち上がった。</p>
----	---

成果	<p>意匠登録、商標登録の出願を終えたので、着物関係の展示会などにも安心して出展できるようになった。今年に入って出展した展示会では大変好評で、4月までに400個近く納品することができた。</p>
----	---

支援コーディネーター



西山雅彦



藤田順一

支援コーディネーター



増田建